

今帰仁村の人口

昭和49年4月30日現在	
男	5,397
女	5,532
計	10,929
世帯数	2,695

広報



なきじん

第5号

編集発行 今帰仁村役場
 広報編集委員会
 TEL 098056-2101
 印刷 沖繩高速印刷
 南風原村字兼城577
 TEL(0988)32-5513

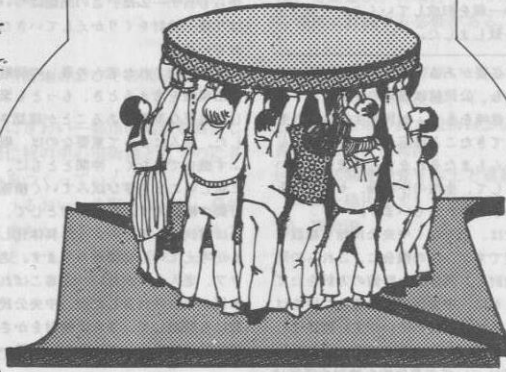
村民がつくる新しい今帰仁村

基本構想作定すすむ

〔10年後のわたしたちの里に向かって〕
ムラづくり委員会、活動を開始する

村民の手によるムラづくりを

先の時代をうけ継ぎ、次の時代に繋いでいくことは、現代を生きるわたしたちの大きな責務であるとともにまた希望でもあります。そしてムラづくりは、わたしたち村民の今から将来にわたる大きな事業といえます。村民ひとりびとりのゆたかな知恵とたくましい活力でこの事業を進めたいものです。ムラづくり委員会へ、村民すべての参加をまじりたいとおもいます。



ムラづくり委員会は

住民グループ・役場グループ・象グループで構成されます。今帰仁村ムラづくりの柱は、生活環境・農業・土地利用にあると考え、ムラづくり委員会にそれぞれのプロジェクト・チームを設けました。今年の4月からムラづくり委員会は基本構想作定の作業にとりかかっています。これから、今帰仁村のヴィジョンづくりや検討作業、現地調査、そして部落こん談会などの作業をすすめ、5月末に基本構想の仕上がりを用意しています。

総合開発計画

今帰仁村総合開発計画の一環として、基本構想作定作業がはじまりました。村民の手によるムラづくりは、昨年の『基本構想(案)』でも提言されていますが、こんど今帰仁村ムラづくり委員会が今帰仁村総合開発計画作定の仕事を進めることになりました。今帰仁村そしてわたしたち村民の生活の将来像を描き、それに向きあって計画的に事業をひとつひとつ積みあげていこうと思います。総合計画の第1の段階として基本構想があります。基本構想は、今帰仁村の現状を点検し、ふまえつつ、ムラの将来像を描きあげるものです。それは、わたしたちの確かな想像力と大きな志によって獲得する“夢”であり、ムラづくりはこの“夢”の現実化ともいえます。



今帰仁村の将来像へ

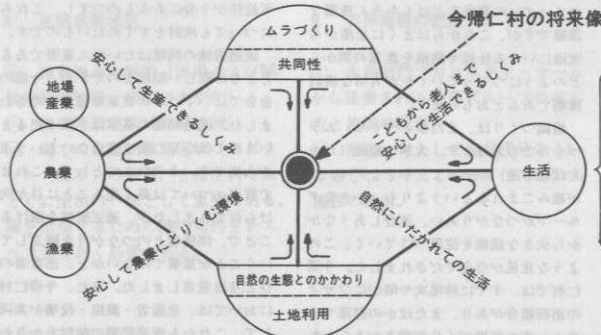
今帰仁村の将来像をわかりやすいかたちでつくりあげることは、基本構想のなかでもっとも大切な作業です。それは、村民の共通の基盤となるも

のですし、また村役場としては“村の姿勢”というかたちでそれを保障しなければなりません。今帰仁村は、社会・経済・空間計画

を一体として考えるのにほどよい大きさです。ひろがりや地形もままとっています。自然の恵みと歴史・文化が生活のなかで親しまれてきました。農業の蓄積も大きいです。これらすぐれた条件を活かして、個性の

あるムラづくりをすすめてみたいものです。ここで、村の将来像を考え話しあっていく共通の方法を、ひとつのたたき台として次の図に表わしてみました。

- 1 農業を基幹として産物加工を組みあわせた立体農業
- 2 生産から流通にいたるしくみづくり
- 3 農民・農業センター、研修センターの建設
- 4 北部で船をもち、運天港から産物をつんで本土に出荷する

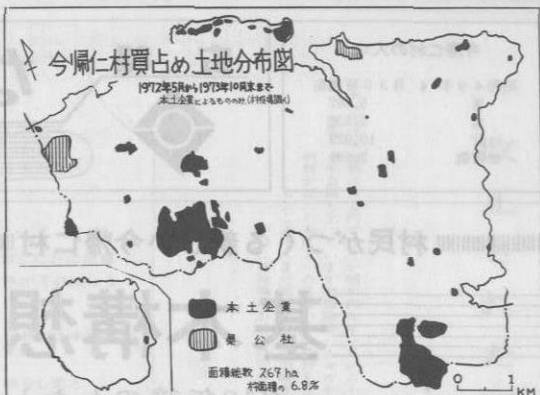


- 1 若者が活き活き活動するムラ産まれてくとも老人まで安心して生活できるムラ
- 2 共同体施設の新しいあり方(例、部落公民館と中央公民館のあり方)
- 3 自然との共生と活用 “今帰仁の美林”と美しい浜に代表される自然にいかだかれて生活

買占め土地対策

今帰仁村の将来像を語る時、まずの課題として、買占め土地とその開発への対策があります。これは、村として考える観光とはどのようなかたが望ましいか、また生活と産業にどのような関係があるか、という関連する問題をふくめて、「買占め土地」に対する村の姿勢をはっきりしたかたちで表明することが、今帰仁村の将来像

くり、実現段階でのムラづくりにもっとも重要な課題といえます。今帰仁村で、1972年5月から1973年10月末までに買占められた土地は、本土企業によるものだけで2.67km²(約80万坪)にもなります。(右の図)これは村面積の6.8%にあたります。さらに沖縄の企業やブローカーの買占め分を加えると、村面積の1割以上が買占められているものとおもわれます。



生活プロジェクト・チームからの報告

生活プロジェクト・チームの第1回合会が4月22日に村役場でもたれました。村の生活環境をめぐってさまざまな意見の交換がおこなわれました。

今回の合会には、あるテーマをきめて、それについて討論するというよりも、村の全般的な生活環境の問題について話しあうことをねらいとしておこなわれました。それで具体的な結論は得られませ

でしたが、
・部落の生活と公民館
・老人と若者の問題
・今帰仁の自然と開発
についてさまざまな意見がかわされました。そしてこれらの問題を軸として、これから村の生活環境について考え、基本構想の一環を形成していくという点で全員が一致しました。

1. 部落の生活と公民館

今帰仁の公民館は、部落の生活において生活環境施設としてのあらゆる意味を全部持っています。村の行政事務の場所、たばこの出荷など生産活動における共同作業の場所、部落幼児園の施設、老人の娯楽や茶のみの話の場、部落自治の場など全部が同居しています。部落公民館は、いつかたばこ出荷のための施設として建設されたものをふくめて、部落が建設し、部落の所有となっており、区長さんが管理責任者となっています。

ていく必要があるとおもいます。いづれにしても、公民館は部落の生活にとって大切な意味をもち、村民の生活はこれを軸としてきたことは忘れてはならないし、これらもまたそれをさらに使いやすい施設にして、生活の中心軸、センターとしていきたいとおもいます。

村では、まもなく中央公民館を建設する予定ですが、この機会に、これらの問題を検討し、具体的な整備の方針をたてるとともに、中央公民館の意味づけをはっきりさせ、村民の使いやすい施設として計画していきたいものです。中央公民館建設についての具体的な検討や提案は生活プロジェクト・チーム、ムラづくり委員会で進めたいとおもいます。

2. 老人と若者の問題

村から出ていく若者の問題は、今帰仁村の将来にとって重大な問題です。その大きな原因は、ひとつは産業や職場、ひとつは若者の生活環境の問題です。今回の合会では、問題の深刻さは確認されたけれども、具体的な対策を提案することは

できませんでした。しかし、村の将来を考えると、この問題を避けて通ることはできません。したがって、これからもチームは、この問題についてねばり強く検討をくりかえしていきたいとおもいます。

また、残された老人の暮しの問題は、生活環境を考えると、もっとも緊急にして重要な問題であることが確認されました。老人にとって重要なのは、暇をつぶす機会ではなく、仲間とともに、さらに新しいことを学び試みていく積極的な行動の機会です。これを村として、あるいは村民としてどのように具体化していくか考えていく必要があります。老人クラブ、老人大学がたいへん喜ばれている例が報告されましたが、中央公民館建設にも関連して、さらに検討をかさね、具体的な提案をしていきたいと思

3. 今帰仁の自然と開発

今回の合会では、今帰仁の自然の豊かさ、それに基づく今帰仁らしさについて皆の意見が一致しましたが、近年にいたってそれが次第に破壊され汚染されてきていることが口々に論じられました。たとえば、炬港あたりの景色は、ほかでもなかなか見ることのできないスケールの大きな景勝なのですが、今ではあのような赤土の海と化しています。大井川はか

つて水の澄んだ深い川だったので、仲宗根あたりでも泳ぐことができたという出席者の一人は感傷深げに発言しました。

大井川の水が澄むまでには長い時間が必要ですが、いつかはかならず美しい流れを回復し、今帰仁のひとつのシンボルにしなければなりません。いづれにせよ、このような自然の破壊に対しては、緊急に手をうつ必要があるというのがプロジェクト・チームの大部分の意見でした。このような事実を具体的に調査検討し、議論を深めていくことが大切とおもいます。

さらに今帰仁村では、役場調べで約80万坪、非公式の情報では約100万坪の土地がすでに人手に渡ってしまっており、これらをコントロールする手だては今までまったくありませんでした。このような状況では、農業に精をだすにしても、自然環境を保全するにしても非常に難しいです。

これらについても、これから具体的に調査をおこない、実態の把握とつめるとともに、これらに対する対策を検討し、全体的な土地利用計画のなかで規制をおこない、利用を誘導していかなければなりません。こうした方向で、生活環境プロジェクト・チームでもさらに検討をかさねていこうということになりました。

農業プロジェクト・チームからの報告

農業プロジェクト・チームの第1回合会が4月23日に役場ホールで開かれました。

今帰仁村の農業の現状やこれからの農業づくりなどをめぐって、いろいろな意見

1. 農業と地場産業

村民全体の暮らしをささえる産業の組み立ては、どのようなものが望ましいかについて考えてみました。農業を基幹にすることは皆の一致するところなのですが、これに観光を組みあわせるのか、それとも地場産業を育成していくのかをめぐって話しあわれました。その結果、地元と結びつけるうまい企業の安易な誘致よりも、農産物加工などの地場産業を積極的に育てていくことを基本の方向にすえて検討をかさねていくことを了解しました。

産業の積みあげのうえに、地元がささえるような自力観光を検討していきたいとおもいます。

2. 仕組づくり・組織づくり

今帰仁村の農業には、すでにかなり大きな課題があります。農業をつくっていく基礎となる条件、たとえば農業の自己循環の確立、生産基盤の整備、技術の展開やリーダーの育成などはもちろん重要な課題ですが、これらはとくに生産から流通にいたる仕組や組織を農業の側からどのようにつくっていくかが大切な検討課題であるとおもいます。

組織づくりは、またびとづくり、ムラづくりでもあります。大きな組織(たとえば経済連)があって、小さなグループが組みこまれるというよりも、小さなグループがつながりあい、連合しあうなかから大きな組織を位置づけていく、このような意見が合会でだされました。今帰仁村では、すでに仲尾次や崎山にツイの出荷組合があり、またほかの部落でもすこしずつ組織づくりの動きがあらわれ

がかわされました。おにも、
・農業と地場産業
・仕組づくり、組織づくり
について話し合いがなされました。そし

てムラづくりの基幹となる農業のさまざまな問題を、これからさらに具体的に検討していくことを、おたがい了解しました。

ています。それに、わかば会のような青年農業者のグループも活動しています。基礎となる条件はとどのついているようにおもいます。これからさらに共通の場で組織づくりの検討を深めるとともに、具体的にその活動をはじめたいものです。今回話題にあがったものではない、農民、農業センターの建設、研修所さらには農業単科大学などがあります。実現の可能性が十分にあるものですが、これらについても検討をすすめたものです。

流通機構の問題はたいへん重要であるとともに難しい問題なのですが、今回の合会ではいくつかの貴重な意見がだされました。流通問題の基本は、高く売るといではなく、安く売らないという点が大切です。そのひとつとして、これまで販売については高く売るときに目が向けられてきましたが、適正価格を設けることで、消費者とのつながりを確立していくことが重要ではないかと、出席者のひとり発言しました。また、今帰仁村においては、生産者・農協・役場が共同で、これから流通問題の検討をかさね

ていくことを了解しました。農業プロジェクト・チームとしても、積極的に検討し提案していきたいとおもいます。また、市場については、沖縄内の仕組を再編することとあわせて、本土市場の開拓を積極的にすすめることが重要な課題です。ひとつの構想として、北部地区で農産物の輸送船をもち、運天港から本土に出荷してはどうかという提案がなされました。

そのほか主要な問題として、買占め土地について話しあわれました。農業を基幹とするムラづくりの方向から、現在の買占め土地や開発の問題を検討していくという点で全員が一致しました。農業づくりに悪い作用をおよぼす恐れのある開発に対しては、農業の側から徹底的監視と規制をおこなっていくこととおもいます。また村有地払下げなどの問題に対して、若い農業者から鋭い疑問がだされました。プロジェクト・チームにおいても、これから検討を深めていこうとおもいます。

土地利用の課題

—山づくり・海の回復・川の復活—

土地利用計画は、生活環境・農業における計画の前提そして総括という性格をもっています。今回は、プロジェクト・チームでの検討が十分にすすまなかったのですが、これからの検討課題

として、象グループからの提案をまとめておこうとおもいます。なお、まん中の図は、現在の今帰仁村における土地利用の大きな構成を表わしたものです。

1. 今帰仁村の生活と産業をささえる自然として保全と活用を考える地域

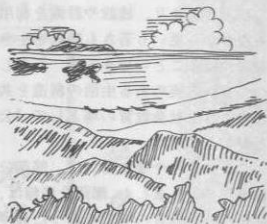
- ㊦ 乙羽岳から北山城址北側までの尾根および勾配15度以上の傾斜地は積極的に植林、保全をすすめる
- ㊧ 今泊から渡喜仁にいたる海岸はとくに村民の生活に密着した海岸であり、これからも村民のレクリエーション地区として考えていく。
- ㊨ 乙羽岳、北山城址をふくむ丘陵地は公園の利用をはかる
- ㊩ 大井川河口から仲宗根中心部までの流域は、市街地の生活と密着した大きな自然としての活用を考える。
- ㊪ 運天水道(仮称、屋我地島との間)そいの海岸は、羽地内海をふくむ海の環の計画と連合して考える。

2. 農地整備地区

- 開発可能耕地はほとんどない。現在の農地の土地条件や水資源を調査し、農業計画をたて、地域営農型(農業土地利用)を確立する必要がある。
- ㊫ にぎわい—都市的施設を累積し今帰仁村の中心市街地としてのにぎわいをつくっていく。
 - ㊬ うるおい—木影をふやし、昼休みにまちかどでちよっとひるねもできるといふ、うるおいをつくっていく。

㊭ 車交通の制限、歩道の設置などで安心して歩けるマチにする。

- ㊮ 周辺部(土地改良区)を市街地に拡大するかどうかは、将来人口、宅地需要予測、現在農地としての実績、営農意欲、将来性といった点から慎重に計画する必要がある。



※上記の地域、とくに山麓・海岸部には買占め土地が集中している。数ヶ所はすでに完成したが、ほかはまだ計画が提出されていない。企業による大規模な観光開発は、村民になんの利益ももたらさない。逆に害をふりまく方が多い。箇所ごとに、村民にどのような影響がでるかを検討し、きびしい条件をだして、開発をおさえるという村の姿勢をはっきりする必要がある。

※農業によるたてなおしが早急に難しい地区は、民宿や海あそびの施設などを部落や村で管理、経営する自力観光を育成する。

※大井川、その他の河川を赤土汚濁から回復する対策が重要である。

※山—丘陵地—台地—海岸—海という大自然の生態系を回復し、野鳥や魚が生活のなかにとけこんでくるようにするのが、土地利用の第1の目標であろう。つまり、山づくり、海の回復、川の復活である。

3. 市街地およびその周辺部

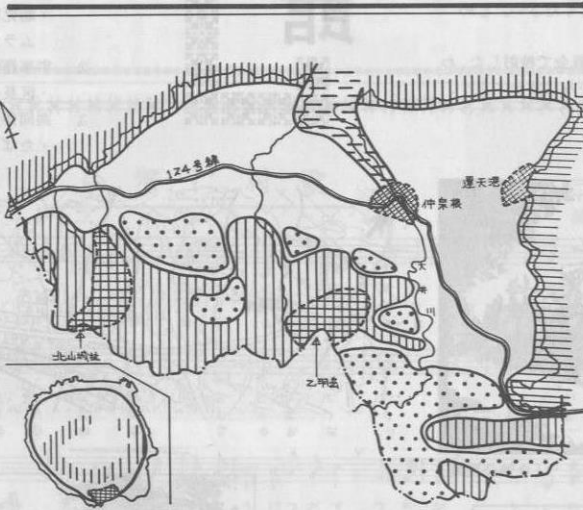
- ㊯ 運天港の位置づけ(重要度は、イ、ロ、ハ順)
- ㊰ 北部全域の農水産物および加工品の本土向け出荷港
- ㊱ 生活関連物資を本土と直結する(那覇を経由せず)
- ㊲ 観光港

4. 運天港の位置づけ

- ㊳ 北部全域の農水産物および加工品の本土向け出荷港
- ㊴ 生活関連物資を本土と直結する(那覇を経由せず)
- ㊵ 観光港

5. 地場 産業、流通施設用地

- ㊶ 運天港地区—流通施設は当然必要であるが、名護埋立地の流通センターとの機能配分を考慮する。工場業種と規模について検討する。
- ㊷ 集落の近くに分散配置して、通勤の便さを第1に考える立地—安心兼業の考え方。



今帰仁村の土地利用構成現況

7. 広域道路と生活道路

- ㊸ 本部半島のスケールで考える問題(本部半島1週道路、運天港、仲宗根、名護市街地との関連)
- ㊹ 広域道路の交通安全対策(歩道、集落内のスピード制限の方法)
- ㊺ 生活道路を広域道路と分離して考える。
- ㊻ 通学、通勤のための自転車路の設定。
- ㊼ 農道の整備(集落—園場—広域道路—流通施設)

8. 漁業振興地区

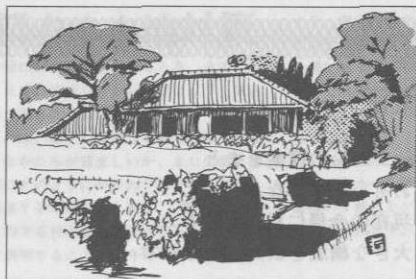
- ㊽ 漁業拠点の整備(漁港および関連施設の整備、漁船の大型化)
- ㊾ 漁業権設定区域の再検討
- ㊿ 磯での自給的採集区域(モズク、ウニ、海草)の保護。今帰仁村では、とくに生活の一部として重要である。海を活用するための陸の条件をチェックしておく必要がある。

9. 公共施設の配置

- ㊿ 生活部門プロジェクト・チームから提案される集落グループの考え方と施設の配置。
- ㊿ 現在、村として建設予定あるいは案として考えているすべての公共施設の検討。

10. 村の環境整備

- ㊿ 住環境としての問題点(内部道路、水道、排水、屋敷林)
- ㊿ ムラの核づくり(公民館広場を中心として)
- ㊿ ムラの生活と密着した緑の保全と活用。



〔与那嶺公民館〕

ひとが集まり、施設や設備を利用して、それぞれ活動するなかから老いも若きも時代を生きる新たな知識や技術を身につけることのできる場。わたしたちの生活現実在即しつつも、内実のある生活の創造を共に試み、すすめる場。このような社会教育の場として「公民館」を位置づけることができます。

これまでの今帰仁村では、部落公民館が上記のような役割を担ってきました。部落公民館は、部落自治に保障された住民の社会教育の場でもあったわけです。同じように、今帰仁村という地域自治に保障された社会教育の場を、わたしたちは今帰仁村中央公民館に設定してみたいものです。

今帰仁村では、中央公民館建設を計画しています。さまざまな個性をもち、いろいろな仕事をもつ子どもから老人にいたるまで、多くのひとびとが利用する場としての中央公民館は、どのような課題を担い、役割を果たしていくのか。それには、どのような建物がふさわしく、またどのような施設をつくっていかねばいいのでしょうか。ささやかな夢でも、大きな構想でも結構です。みなさんの知恵とアイデアを、中央公民館建設に活かしたいとおもいます。知恵とアイデアを、今帰仁村役場企画宛に送ってください。しめ切りは5月28日です。

みなさんのアイデアを、ムラづくり委員会で検討した、わたしたちの中央公民館のかたちとなかみに活かすよう、提言していきたいとおもいます。



〔兼次公民館〕



〔仲尾次公民館〕

みんなのアイデアで つくろう中央公民館

現在の部落公民館の機能

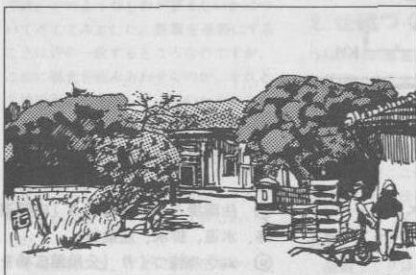
- 1 部落の暮らし
 - ・部落総会、評議員会
 - ・子ども会、青年会、消防団、婦人会、老人会
 - ・幼稚園、子どもの遊び場、茶のみ話、酒宴、ムラまつり、エイサーの練習、映画会。
- 2 字事務所として
 - ・区長・書記の委託事務
- 3 共同作業の場
 - ・たばこの出荷など



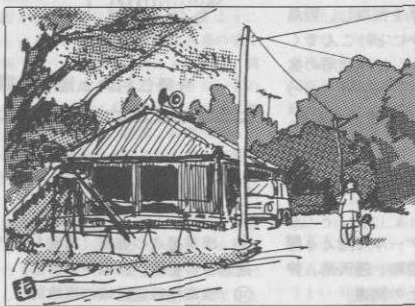
〔今泊公民館〕



○内が中央公民館建設予定地



〔崎山公民館〕



〔諸志公民館〕

おわりに この第5号は基本構想特集—ムラづくり委員会からの報告で埋めました。各報告は決定事項ではなく、これからわたしたち村民みんなでムラづくりを考え、進めていくときのひとつの提案素材です。ムラづくりをみんなが進めていきたいものです。みなさ

んの参加を待っています。ムラづくりのこと、そしていろいろなことは役場の企画室(でんわ2101)が窓口になっています。お立ち寄りください。お知らせください。では、また……